

第6期第9回静岡市行財政改革推進審議会 会議録

- 1 日 時 平成27年5月29日（金） 9：00～11：00
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎新館8階 市長公室
- 3 出席者 **【委員】**
曾根正弘会長、足羽由美子委員、青木孝輔委員、狩野佐知子委員、木村幸男委員
高橋節郎委員、土屋裕子委員
- 【行政】**
田辺市長、三宅総務局長、学校給食課 ほか
- [検討部会員]
大長総務局次長（部会長）、増田行政管理課行財政改革推進担当課長 ほか
- [事務局]
窪田副主幹、桜井主査、兵庫主任主事

4 傍聴者 なし

5 会議内容

【会議内容】

- 1 開 会
《開会宣言》
- 2 市長あいさつ
《田辺市長あいさつ》
- 3 審議会への諮問
《公共建築物施設群別マネジメントの方向性及び学校給食のあり方について諮問》
- 4 諮問事項等に係る意見交換
《審議会委員と市長との意見交換》
- 5 議 事
(1) 平成27年度審議会のスケジュールについて（以降会議録のとおり）
(2) 諮問事項の概要について
①諮問事項の審議の進め方について
②アセットマネジメントの現状と課題について
③学校給食の現状と課題について
- 6 その他
- 7 閉 会

曾根正弘会長：それでは、次第にそって進めていく。

はじめに「平成27年度審議会のスケジュールについて」事務局から説明願いたい。

《事務局説明》

曾根正弘会長：ただいまの説明について何かご意見ご質問があれば願いたい。

続いて「諮問事項の概要について」であるが、はじめに「審議の進め方について」事務局から説明願いたい。

《事務局説明》

曾根正弘会長：ただいまの説明について何かご意見ご質問があれば願いたい。

続いて「アセットマネジメントの現状と課題について」公共資産経営課から説明願いたい。

《公共資産経営課説明》

曾根正弘会長：ただいまの説明について何かご意見ご質問があれば願いたい。

続いて「学校給食の現状と課題について」学校給食課から説明願いたい。

《学校給食課説明》

曾根正弘会長：ただいまの説明について何かご意見ご質問があれば願いたい。

木村幸男委員：資料4-4の真ん中、解決への方向性と書かれている。提供方法をセンター方式で統一するとある。安心安全な給食の提供と食育の向上を図ると書かれている。自校方式よりもセンター方式のほうが、安心・安全で、食育も向上すると捉えてよいのか。

学校給食課：そのとおり。安心安全という観点では、老朽化した施設の改修が必要である。改良の際には、ドライシステム化やアレルギー対応などを組み込んで改善が必要になる。単独調理施設をそれぞれ改築することと、どこかにまとめたセンターを配置することなど、コスト比較が大きな観点になる。

食育の観点からすると、一つの市の中で提供方式が違うことで、均一の水準の給食の提供ができていないと痛感している。そのため、センター化することで、均一のサービスの提供ができるようにしていきたい。あるいは、全員給食の達成を目指す。センター化すると設備的にも充実した内容が整い、スケールメリットもある。また、献立の種類も豊富にできると考える。単独調理施設だと限界があり、センター化の方が献立等の工夫、改善がしやすいため、センター化へ一本化していきたいと考えている。

木村幸男委員：説得力が弱いと感じられる。食育の向上、自校方式とセンター方式、安心・安全について、おそらく反対の意見もあると思われる。

高橋節郎委員：方向性や課題は出ており、市としての考え方は分かったが、行財政改革として我々が関与できる部分として食育や衛生面というところについて、どのように言うことができるか疑問がある。

曾根正弘会長：そのとおり。審議会として関与できる範囲は極めて限られている。そうすると、コストの問題が大きいと思う。

あと、資料にアンケート結果があるが、センター方式のアンケート結果などはあるか。

学校給食課：特になし。このアンケートは、お弁当給食に関して、評判があまりよくないことを踏まえ、実際に食べている子供たちはどのように感じているのかというところを確認したかった。抽出ではあるが、一度確認しておきたいということで実施したもの。

足羽由美子委員：センター方式に統一していく方向性が決まっている中で、この場での意見交換と捉えている。私は、今も自校方式をやっているところまで、このセンター方式の中に取り込んで行くメリットが、金額以外に見えてこない。

なぜなら、私の子供は、小学校は弁当、中学校は自校方式であったが、給食を作るところが目に見えた。給食の調理員が校内で作っていて適温の給食で出てくる。各クラスの給食委員が、配膳する方法は暖かく、アットホームであるとも感じる。そのため、校外調理委託をセンター方式にすることのメリットは明確にわかるが、設備の老朽化という問題だけで、自校方式をやめて全部センター方式に取り込んでいいのかは疑問である。

また、センター方式の場合、温度が問題になると思うが、具体的にどのような方法で給食が運ばれ、配膳されるのか聞きたい。

学校給食課：センター方式だと、おかずをそれぞれ作り、それぞれの食缶に入れる。それを各学校に届けて、子供たちがクラスで配る。

足羽由美子委員：その食缶を子供たちが取りに行き運ぶという方法か。

学校給食課：そのとおり。各学校に給食受領室というのがあり、そこまで給食センターがまとめて届け、そこからは子供たちが自分の教室へ持ち帰り、給食当番が配膳する。

足羽由美子委員：わかった。自校方式をやめてセンター方式の中に取り込むというメリットというのは、数字以外は何があるのか。

木村幸男委員：単純に考えて、やはり集中しているため合理的になってコストが安くなり、人件費も安価になるという単純な予想はできる。それはそれで説得力はある。しかし、何かを試すという面で市がセンター方式で行きたいということであり、それを審議会が承認するとなったら、市民を説得できる理由を我々が学んでおく必要がある。

曾根正弘会長：ただ追認したように思われる可能性がある。

木村幸男委員：そのとおり。自校方式、センター方式にもメリットがあるかもしれないが、十分市民に説明できるようにしなければならない。

我々としては、ただ単に手を挙げて賛成するわけにはいかない。自校方式だってメリットがある。学校の施設が老朽化したといっても、大きなセンターを作るのと個別に改修していくことの違いをしっかりと押さえていかないと説得ができないと思う。

土屋裕子委員：同感である。自校方式の良さは、食育という面では作った人の顔が見える給食であり意味があるものだと思う。しかし、市としてセンター方式に向かっていくということであれば、その中で食育をどういったところに取り組んでいくのかという別の議論が必要になっていくと感じた。

給食費に関しては市の予算でどのように分配されていくのか。学校単位では、おそらく給食費が異なると思う。また例として、私立の学校などの取り組みはどうなっているのかも気になる。

温かい食事が食べたいということが理由だとすると、なぜ冷たい料理が出てくるのかが問題であ

る。温かいだけであつたら解決方法があると考えられる。おそらく、提供する側の安心安全という言葉が中にある。安心安全に関して考えると、老朽化であれば異物の混入が挙げられ、食中毒であつたり、アレルギーのことであつたり、食品の産地や、輸入の食品が多いという事実もある。地産地消がどこまで可能であるのかも、食の安心安全に関わってくると思う。安心安全の意味を明確にしてほしい。例えば過去に浜松市でパンの食中毒が広範囲に出たことがあつたが、センター式になるとそういったリスクも大きくなってくると思われる。そうしたことを踏まえて、安心安全なのかといった様々な疑問点が出てくる。

曾根正弘会長：今日で全て答えてもらうわけにはいかないかもしれないが、問題提起として必要である。大きな方針はあるとしても、まだ我々が審議会を通じて、手直しあるいは肉づけをしていく要素が審議会の役割として当然ある。

学校給食課：すぐに答えられるものが少ないが、その中で一つ、給食費の話が出たので基本的なこととして説明する。現在、市内の給食費は一律同額である。どの提供方式であっても、小学校256円、中学校297円である。

給食費については、私会計という形になっており、学校が保護者から徴収して、そのお金は食材の購入のためだけに充てるという仕組みになっている。学校が保護者から徴収したお金を、食材を納入してくれた業者に支払うというのが基本的な仕組みである。旧静岡の方はセンター方式ということもあり、静岡市の学校給食会が取りまとめてやっている現状である。

足羽由美子委員：給食に関しては、委員から多くの意見が出てくると思う。スケジュールを見ると、給食の討議が2回であり、1回はまとめの答申になっている。公共施設の方のウェイトが非常に大きくバランスについて疑問がある。

曾根正弘会長：9月下旬と10月下旬と2回あるが。

足羽由美子委員：実質1回である。勉強会は視察のみであつて、討議するわけではない。

曾根正弘会長：そのとおり。

木村幸男委員：給食は特に母親が気にする。慎重に対応する方がいいと思う。

曾根正弘会長：そのとおり。

事務局：スケジュールについては今後調整をしていき、議論が尽きなければ回数を変更したい。

曾根正弘会長：追加ということか。

事務局：そのとおり。今日は、現状と課題のみであつて、いきなりセンター化がいいというのは飛躍しすぎているところもある。次回、センター化のメリットやデメリットについて、細部について市の施策案を提出して、それを基に議論し、調整していきたい。

曾根正弘会長：もう少し実態を確認した上で議論したい。

次の勉強会は給食センターに行くので、実際に現場を確認できると思う。

そのほか特になければ、本日の議事はこれで終了する。

署名 静岡市行財政改革推進審議会

会長 曾根正弘